

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市立乳児院		
管理者名	社会福祉法人愛宕福祉会	指定期間	令和2年4月1日 ~ 令和7年3月31日
担当課	こども未来部こども政策課		
所在地	新潟市中央区川岸町1丁目57番地1		
根拠法令	児童福祉法第37条		
設置条例	新潟市乳児院条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 527.25㎡ ・延床面積 469.80㎡ ・構造・階高 木造 地上2階建 ・施設内容 養育室（共用ラウンジ、寝室、ほふくスペース、キッチン等）、 応接・相談室、診察室、調理室、事務室、親子生活訓練室等 ・定員 10名 ※平成30年度改定 		

施設設置目的	
<p>保護者の離婚や病気、養育困難、虐待されている乳児、その他不適切な環境により、家庭で育てることが困難な場合に、児童相談所の判断で乳児（保健上、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、幼児を含む。）お預かりし養育し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設。</p>	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p>基本理念 社会的養護の理念と原理のもとに、乳幼児の心身及び社会性の健全な発達を促進し、その人格の形成に資する養育を行うとともに、児童相談所や児童福祉施設等の関係機関と密接な連携を図り、乳幼児に適切な支援を行うこと。</p>
2	<p>重点政策</p> <p>(1) 養育・支援 乳幼児の命を守り、その心身及び社会性の健全な発達を促進するため、家庭的な環境で一人ひとりの心に寄り添い、愛着関係を築き信頼関係を育むとともに、発達を支援する環境を整える。</p> <p>(2) 家庭・里親への支援 家庭復帰に向けた親子関係の再構築支援を行い、あるいは、里親への委託に向けた取組を行う。</p> <p>(3) 自立支援計画、記録 子ども一人一人の心身の状況や、生活状況等を正確に把握した、自立支援計画を策定する。</p> <p>(4) 関連機関連携、地域連携及び支援 市、児童相談所、里親会、医療機関及び他施設等の関係機関等との連携・協力体制を構築する。また、地域の里親支援、子育て支援等に取り組むなど、施設のソーシャルワーク機能を活用し、地域の拠点となる取組を行う。</p> <p>(5) 職員の質の向上 定期的に研修に取り組む等、職員一人ひとりの質を向上させ、施設全体の養育・支援の質を向上させる。</p>
2	<p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務において善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置目的を踏まえて、施設の一体的な管理によりその効果を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、保護者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 保護者等や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	サービス満足度	里親研修受講者等へのアンケートを実施し、「満足」が80%以上	里親研修受講者21名にアンケートを実施した。100%が良い(満足)であった。	A	視察・研修受け入れ等のアンケートでは、職員対応につき高い評価を得た。
	苦情・要望への対応	原則7日以内に回答	苦情1件。 苦情の第一報は児童相談所にあり、速やかにご本人に聞き取りをする。 職員の言動に対する苦情だったため、保護者の気持ちを考慮した対応策を早急に講じた。	B	苦情に迅速かつ適正に対応した。
財 務	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	法人経理規定、経理マニュアルに基づき適切に管理した。	B	指標どおりであった。
	管理経費の削減	管理経費削減計画に基づき削減に着手	毎月、水道光熱費の昨年度比較をして、推移をみていった。 節電のために、廊下に人感センサーのライトをつけるなどして安全かつ節電対策を講じた。備品係の会議の中で、無駄のない備品管理について随時検討した。	A	光熱水等消費量の抑制等の省エネルギーが適切に実施されている。
業 務	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	遵守した。	B	指標どおりであった。
	安心・安全の確保	・避難訓練等の実施(月1回以上) ・業務マニュアルの見直し	避難訓練、防犯訓練は月1回以上実施。単独消火訓練を含め22回実施している。 ヒヤリハットはこまめに収集し、毎月分析検討、事故防止啓発に努めた。リスクマネジメントに係る研修も年2回実施。	A	利用者の安全確保対策を徹底している。
	個人情報保護の徹底	・施設内研修の実施(1人あたり年1回以上) ・業務マニュアルの見直し	個人情報の保護については、自己評価研修にて研修を実施したり、施設全体に注意喚起を促すなど、情報保護の徹底を行っている。 プライバシーに関するマニュアルの見直しも実施し、周知した。	A	指定管理者が管理する個人情報について、漏えい、紛失等の事故防止のため、管理体制を整えている。
	関係機関との連携等	会議等への積極的な参加(年12回以上)	新潟市・市児童相談所との定例会議、地域連携会議、担当者会議、自立支援計画会議、各協議会への参加、延べ27回に参加した。	B	指標どおりであった。

	地域との交流	地域行事への参加等、地域との交流を6回以上実施	コロナ禍となり、他者との交流を実施しないという1年間になった。	B	感染拡大防止のためやむを得ないと判断した。
	社会・地域への貢献	再委託する場合の市内事業者への再委託及び物品等の市内事業者からの調達率90%以上	94%	B	指標どおりであった。
	里親支援の実施	里親研修の受け入れ年2回以上	養育里親研修21名(専門里親研修1名、登録前研修20名)を受け入れた。訪問、外出支援、アフターフォロー、電話相談、離乳食講座など多岐にわたり里親支援を実施。	A	コロナ禍においても出来る限りの受け入れを行っている。
人 材	適正な人員配置	条例で定めた基準を上回る職員数の配置	1.3対1以上の配置、FSWは2名とうち1名を里親担当するなどして自助努力を実施した。	A	高水準の職員配置を行っている。
	配置職員の資質向上	計画的な研修の実施年10回以上	施設外研修93回81人 施設内研修31回310人 法人研修17回30人 コロナ禍のZOOM研修により時間を工夫してオンラインや配信の外部研修を多く実施した。	A	感染予防のため工夫しながら、研修を多数実施し、運営の質の向上に努めている。
	ボランティアとの連携	ボランティアの受け入れ人数年間延べ10人以上	コロナ禍ではあったが、ボランティアにも健康管理をお願いしながらきていただいた。感染拡大時期は受け入れを中止した。年間延べ184人	A	コロナ禍においても出来る限り積極的な受け入れを行っている。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守している	B	適切に実施されている。

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

里親支援については、自主的に里親担当職員を配置し、児童相談所の里親担当者とともに里親に関する支援を行った。施設単独としては、里親向けに離乳食支援を4家族17回実施している。ちびっこ広場には多職種が参加させていただき12月のクリスマスには乳児院職員によるクリスマスコンサートをさせていただき、参加した里親ご家族に喜んでいただいた。

委託時より実施している、ヒヤリハット収集についても、毎月集計分析を行ったり、すぐに改善したほうがいい事案に関しては即対応するなどして事故防止に努めた。ヒヤリハット報告書は1951枚となり、小さな気づきを重ねることが事故防止につながるという意識については職員に定着した。

特筆すべきは外部研修への参加である。ZOOMなどのオンラインや動画配信などの研修になったため、交通時間がかからない、好きな時間にみられるなどの利点があり、たくさんの職員に研修を受けてもらうことができた。コロナ禍ならではの状況だったと思う。

地域交流に関しては、コロナ禍により「交流を避ける」という状況だったが、ボランティアには通常どおり感染予防をした上で来院していただき、地域の方との唯一の交流となった。ボランティアに関しては開所以来、ほとんど毎週1回継続していただいているグループの方がボランティア表彰(企業)を受けることとなり大変喜ばしいできごとだった。感染状況をみながら、地域交流事業なども今後検討していきたい。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

前年度に引き続き、コロナ禍の状況の中、徹底した感染拡大防止策をとりながら施設を運営している。コロナ感染拡大防止に努めながら、里親制度拡充のため、研修の実施や充実した里親支援を行っている。また、引き続きヒヤリハット事例の分析・共有による安全管理がなされている。職員の質の向上のため、外部研修を多数受けており、常に前向きに改善を繰り返す姿勢がうかがえる。良好な運営が行われており、指定管理者として優良と評価する。